

# 若い人たちへ

坂口 恭平

私は坂口恭平というものです。私のことを知らない人も多いでしょうから、自己紹介をしようと思うのですが、私は最近出した本のタイトルも『まとまらない人』とつけているくらいで、とにかくまとまりがなくわけがわかりません。でも、それで困っているわけではありません。その逆で、実はこのまとまりがないおかげで私は助かっています、それで生き延びていると言えるでしょう。でも、少しだけ私がこれまでやってきたことについて書いてみたいと思います。

私は小さい時からずっと落ち着かずにいろんなことが好きでした。今日これが好きだと思って漫画を描いていても、次の日には飽きてしまっただけで今度は子ども部屋で秘密基地を作り、その次の日には文房具を作ってみたいと思い、レターセットをA4のコピー用紙を駆使して作って透明のビニール袋に入れてセロハンテープを貼ると商品っぽくなるので、それを同級生の子たちに五〇円で売って稼いだりもしていました。

あと私は小学生の時はいじめられている子を見つけると、つい気になってその子の家に遊びに行ったりして、その子の家族を一人で勝手に取材したりしました。特徴があるからついじめられていたように感じました。特徴がある子は、特徴ある親の元で育っているように感じました。私は取材をすると、もっとその子のことが興味深くなり、